

# 古文書を読む会学習記録

作成日 平成30年5月27日

開催日	平成30年5月24日	時 間	10:00~12:00
場 所	金沢公会堂リハーサル室	出席人数	14名
講 師	真田雅行氏	作成者	大門 利晴
テーマ	第二学習 艱難実録(中)⑨		
概要	<p>一. 桑名公から使者がきて、榎本武揚の船に乗り込むことを依頼した。ところが榎本は3人まではよいが大勢の家来は乗船は認められないとのことなので、ほかの多くの家来の扱いを相談した。土方、牧野の兩人へ頼んで、森弥一左衛門を頭に12,3人、新選組に加入させることになった。</p> <p>一. 君公、桑公、小笠原公は打合せし、仙台城を出て塩釜に行かれた。お忍びなので歩き、小笠原公はご不快で駕籠、塩釜の柏屋なる所へ止宿、桑公は夜になって入ってきた。乗船は桑公はお供三人、小笠原公はお供二人、君公はお供二人で主従十人である。</p> <p>一. 桑公と同道約束、早い方が途中で待つことに暫く待ったが昼過ぎになっても桑公は来ずそのうちに小笠原が来て一緒に塩釜まで行った。ところが桑公先についていたので同じ旅館に泊まることになった。</p> <p>一. 久しぶりの旅なので用意した金は僅か 500 両と君侯の胴巻きの 100 両なので仙台を立ち退くことになった。仙台までは泰輔と剛之進が賄いその後は自分が引き受けた。江戸から持ってきた三百両等全て集めて七百両。それから萬之進様費用織衛初め15人への手当、旅館へ支払うと残り五百両になったので心配、泰輔へ相談、江戸へ着いたら三田龍之介に報告、君公の居所がわかたら早々に金を回すよう話した。堀口覚之助へ手紙を託し妻に自分は江戸に帰らないので自由に再縁しても良いこと、甥の甲三については然るべく頼む旨話した。</p> <p>一. 翌朝君公は剛之進が世話し断髪された。その後三公は松島へ出発乗船。自分は別の船で松島へ行き万之王に進様にお目通りした。ここに四五日滞留されたと記憶する。陽徳院様のご機嫌伺に行き、石井桜所へ同行したこともあった。松島は旧幕府からの脱走者が多く仙台城から引き揚げて、三公家来も土方俊三に従い引き揚げてきた。小笠原公の兵隊も旅館へ割り込んできた。</p> <p>一. 成瀬、丹羽と自分は釜石に用があっけいき、そこに一泊その後成瀬に同行、近場の湯治場辺りから高木まで見回り帰ってきたところ、三公とも急に寒風沢へ立った。これはスネル号が近日出帆するのでその前にお逢いしたい旨話した。日光宮様より内使として南照院外の両僧が旅館にきてご三公へ面談したところ降伏の勧めの使者だったので、しっかり相談して返答することと、し一両日塩釜へ引き取り待つようにし急に寒風沢に入られたとのこと。…以下略</p>		
次回予定	平成30年6月14日 区民活動センター会議室AB 第一学習 野島浦鈴木家文書⑦		